



—— 木造新築住宅 コスト安 強度向上で急伸 —— 県内一戸建

鉄筋コンクリート（RC）住宅が主流の沖縄で木造住宅が急伸。強度の向上や建築コストの安さを背景に近年急速に建築戸数を伸ばしている。木造住宅は外気との温度差が少なく「本来、高温多湿の気候に適している。」需要はさらに増えると思われる。

標準的な住宅で比べてRCより安く建築できる点大きい。これまで、沖縄特有の台風やシロアリの被害から敬遠されがちだった木造住宅だが、「木造でも耐震性が考慮されるようになり、また、シロアリ対策にも力を入れている。家を建てる人の好みが多様化する中で、昔のような木造への否定的な印象は薄れている。」

沖縄の住宅は沖縄戦を契機に戦前の伝統的な木造住宅からRC造りが主流となった。台風常襲地域に加え、終戦直後の米軍住宅の整備などを通して、米国式のコンクリート建築の技術移転が進んだことがある。

一方、全国的な木造建築の流れでは、柱や土台の構造材をあらかじめ工場でカットして接合用の加工を行う「プレカット」工法が一般化し、工期の短縮などで建築費削減につなげている。木造住宅の最新技術と実績を持つ本土の大手住宅メーカーが沖縄の市場性を見込んで相次いで進出していることも、増加に拍車を掛けている。

沖縄県内の一戸建て及び長屋建てに占める木造住宅の比率（新築着工数）

①沖縄県全体の一戸建て及び長屋建て建築戸数

年	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
一戸建	2,977	3,001	3,109	3,070	3,612
長屋	714	835	655	649	795
合計	3,691	3,836	3,764	3,719	4,407

②木造住宅の一戸建て及び長屋建て建築戸数

年	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
一戸建	631	715	904	1,166	1,398
長屋	160	133	138	164	262
合計	791	848	1,042	1,330	1,660

③一戸建て及び長屋建てに占める木造住宅の比率

年	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
木造住宅比率	21.4%	22.1%	27.7%	35.8%	37.7%

ところで、石垣市では専用住宅は17年度までRC造が多かったものの、翌年度から逆転。19年度は木造が52件、RC造47件を上回った。

（八重山毎日新聞、4月25日）

沖縄の 気候風土にあった 木造住宅

沖縄県では「沖縄の風土に適した家づくり」事業が進められており、特に省エネの家の建築を推進しています。

沖縄は一年中湿度が高い

沖縄は亜熱帯気候のため、一年中湿度が高いのが特徴です。（石垣島での平均湿度約77%）。家の中と外の湿度差が大きければ大きいほど結露しやすくなります。クーラーをつけていた部屋で窓を開けると高温多湿な空気が入り込み、部屋の中で結露が発生します。木造の家はRC住宅に比べて調湿しやすい家になります。湿度が高いからこそ、木造住宅が良いのです。

結露で健康被害が発生

結露で濡れた壁や床を放置するとカビが発生します。カビはさまざまな病気の原因になり、家族の健康に害をおよぼす可能性があります。喘息の原因やダニがカビをエサとしているため、カビが増えればダニも増えます。特に小さな子どもやお年寄りのいる住宅では、結露が起これにくい木造住宅を建築することがオススメです。

日射を遮る工夫が必要

特に日射の強い沖縄の夏季において、太陽高度が低い西日は室内の奥まで届くため、部屋を暑くする原因になっています。住宅を建築する際に西日を上手に遮断することが重要です。庇や軒を設け、日射熱が入りにくい高性能ガラスや遮熱サッシを採用するなどの対策が必要です。また、冬季では日射を屋内に取り込むコントロールして、部屋の中を明るく暖かくする工夫もオススメです。

台風・防風対策を考える

沖縄県では島国のため潮風や強い風があります。昨今では強い台風だけでなく猛烈な台風も発生しており、強い風や台風にも安心な家づくりが必要です。風当たりが強い場所には、大きな窓や掃き出し窓の設置はしない、大きな窓は養生ができるように考える。掃き出し窓をつけるなら雨戸をつけるなどの対策が必要です。

沖縄で建設されている木造住宅は、台風被害を防ぐための構造がしっかり計算された上での施工がされています。木造住宅では木造軸組工法という柱を立て、梁を水平に渡し筋交いという斜めの材を入れて補強をしているため、戦後の木造住宅に比べ、強度が飛躍的に強くなりました。

シロアリ対策が必要

シロアリは木造住宅を主に巣にしているのではなく、土壌に巣があることが多いため、土の中から住宅に侵入してきます。木造住宅では基礎をコンクリートで固めるベタ基礎で建築することで土壌性のシロアリの侵入を防ぐようにしています。

また、最近ではアメリカカンザイシロアリといった外来種のシロアリも発見されています。在来種のシロアリは湿気など水分がないと生息できません。しかし、アメリカカンザイシロアリは、乾いた木材の中のわずかな水分で生息・活動することが可能であり、蟻道を作らず侵食した木材から移動するため、発見が難しい。沖縄でのシロアリ対策は、土壌性シロアリと乾材シロアリのそれぞれの対策が必要だと言えます。

徹底的に湿度対策を行う

沖縄は、1年を通して湿度が70%を超える月がほとんどという高湿な特徴のため、湿度対策は絶対に必要です。湿度が家を木材・金属などを腐らし、結露を発生させ、カビの原因をつくり、害虫被害を起こすなど、家にとって大敵です。

湿度からカビが発生するとダニも繁殖し、アレルギー、アトピー、鼻炎、喘息などの原因にもなり、健康にも直接関係します。建物への被害だけでなく、健康被害がでるシロアリを入れないためにも住宅の湿度対策は絶対に必要です。RC造に比べて木造住宅の方が湿度対策がしやすいのが特徴です。

省エネ住宅を目指す

国の法律で、住宅の電気やガスなどの消費量を減らす「省エネ住宅」とする「建築物省エネ法」の義務化が予定されています。RC住宅は外気温が下がると熱を放出する（輻射熱）性質があり、日中の熱を溜め込み、夜でも室内の温度が下がりにくい性質があります。そのため、エアコンをフル稼働しなければ快適に過ごせない家となっているのです。

快適性はエアコンを使って室内の温度をコントロールできますが、省エネの基準からはかけ離れているのが現状です。RC住宅が建築費用だけでなく、光熱費などのランニングコストも高い家になっています。そのため、沖縄県内でも木造住宅が増えているのはRC住宅に比べ、木造住宅の方が省エネ性能が高いことが要因の一つです。

沖縄の気候風土には木造住宅がオススメ

沖縄での住宅建築は、建てる場所の立地条件を加味して、構造や間取り、デザインを決めることが快適で住みよい住宅になると言えます。

高温多湿の沖縄の環境には、調湿機能が強く、遮熱、断熱がしやすい木造住宅が合っているといます。是非、これから新築を検討している方へ沖縄の気候風土にあった木造住宅をオススメします。

木造住宅のシロアリ対策を深掘りしてみよう！！

シロアリには土壌性と乾材の2種類がいる

日本でのシロアリといえば、ヤマトシロアリとイエシロアリが有名。性質で分けると土壌性シロアリのヤマトシロアリとイエシロアリ。乾材シロアリのアメリカカンザイシロアリとダイコクシロアリがいます。

ここでは、特にイエシロアリ（土壌性シロアリ）について考えてみます。

イエシロアリにとって水分は非常に重要で土中から蟻道を伸ばして水を運び、木材に被害を与えます。

その活動範囲は最大半径が100mにもなる。

地下道から家の基礎に侵入し、床下から家全体に広がっていくため、被害が多くなる。

シロアリ対策にはベタ基礎が必須

土壌性シロアリは、地面から家に侵入します。そのため、沖縄での木造住宅を建てる際には、シロアリ対策として『ベタ基礎』という住宅の基礎部分をコンクリートで覆います。

このベタ基礎にすることで、シロアリが侵入しにくい状態にしています。また、土壌性シロアリは乾燥に弱く、乾燥した場所では生息ができないため、床下は通風や換気ができるようにする。

シロアリの侵入経路は決まっている

土壌性シロアリの侵入経路は、ほぼ決まっています。その部分に気をつければシロアリの侵入を防げます。

- ・基礎の立ち上がり
- ・基礎の打ち継ぎ部
- ・玄関ポーチ
- ・配管貫通部

施工時に上記のポイントで亀裂などが無いか確認することが重要です。

沖縄の住宅にはシロアリ対策が必須

沖縄には、どこでもシロアリが生息していると言っても過言ではなく、木造住宅だけでなくRC造住宅でもシロアリ対策が必須となっています。新築住宅でシロアリ被害を出さないようにするためには、シロアリの知識を持ってシロアリ対策と定期的な点検を行い被害を出さないようにすることが大切です。

次回の住まいる塾通信 2020.8月号

今、最も注目されている通気断熱工法『WB HOUSE』の住まいづくりについて、次号より連載で皆様にお届けしたいと思います。ご期待ください。

『深呼吸したくなる家』

「人」「家」「地球」の健康を未来の子どもたちへ

